

# 「大坂の史跡を訪ねて」連載31回目

オサタニ ヨシハル  
長谷 吉治

## 吉田松陰 来坂時訪問の地

吉田松陰は22歳のとき士籍を削られますが、2年後の24歳の時、10箇年の遊学の藩許を得ます。松陰は嘉永6年(1853)、1月26日長州萩を出発し、江戸に至るまでの旅を日記にした「癸丑遊歴日録」を残しています。この書物には、同年6月5日ペリー来航に対し、急遽現地調査に赴き、記録にとどめた歴史的価値のある貴重な史料といえます。その「癸丑遊歴日録」には大坂など畿内を訪問した記録が詳細に記されています。その中から2件をご紹介します。

### 吉田松陰訪問の地①

## 後藤松陰の私塾「広業館」跡 W松陰(吉田松陰&後藤松陰)対談の地

大阪府中央区北浜4-4-12

▶ 「癸丑遊歴日録」の嘉永6年(1853)2月11日には、大坂梶木町の後藤春蔵(松陰)を訪れたことが記載されています。

「十一日(途中省略)。後藤春蔵を梶木町に訪ひ、一見して及ち出で、舟に還る。(以下省略)」

吉田松陰はその後、森田節斎を訪ね、岸和田などを遊歴の後、再び3月18日に大坂へ戻ります。しばらく記録が途絶えていますが、4月1日と3日、再び後藤松陰を訪ねています。

「四月朔日 晴。後藤春蔵・藤澤昌蔵(即ち東駭なり、高松)を訪ふ。二日 晴。坂本鉦之助・奥野彌太郎(遠藤但馬守の臣)を訪ふ。三日 晴。後藤春蔵を訪ふ。(以下省略)」



吉田松陰肖像画



後藤春蔵松陰の書

### 後藤松陰 寛政9年(1797)～元治元年(1864)

名を機(はた)。字を世張。通称を俊蔵または春草。安八郡森部村に、医師 後藤玄中の二男として生まれます。16歳で菱田毅斎の私塾の塾長を務め、毅斎の勧めにより、頼山陽の門人となります。文政3年(1820)、大坂の永代浜で開塾し、文政8年(1825)、朱子学者である篠崎小竹の娘町子と結婚します。

この頃、「詩の広瀬旭荘、文の松陰」と呼ばれ評されていました。塾名は「広業館」といいますが、何度か移転し、後藤松陰が60歳のころには梶木町御霊筋西南角(現在の北浜4丁目)で開いていました。吉田松陰が訪れたのはこの地と考えられます。



二人の松陰(後藤松陰と吉田松陰)が対談した跡地



前記のとおり、吉田松陰が長州萩から江戸への旅路に出発したのは、嘉永6年(1853)1月26日で、海路で大坂に着いたのは2月10日でした。

松陰が大坂で最初に訪問した人物は、坂本鉉之助でした。来坂した翌日2月11日に坂本鉉之助の邸を訪ねています。

吉田松陰の「発丑遊歴日録」には

「十一日 晴。尚ほ舟に在り。坂本鉉之助を其の桃谷の邸を訪ふ。鉉之助、號は鼎齋、諄々と善く談じ、其の著はす所の暴母迦農説評題を出し示す。鼎齋曰はく『土佐の老候は砲技を嗜み、藩制毎年砲八門を鑄る、口径の長短皆砲家の建白を聴き、皆填するに周興嗣の千文各々一字を以てす。(以下省略)』

翌12日には高津宮に参詣したあと、大和五條の森田節齋を訪ねるため大坂を発ちました。森田節齋を訪ねてからは岸和田などを遊歴の後、再び大坂へ3月18日に戻ります。

3月19日から30日まで日記の記録が途絶えますが、4月2日、坂本鉉之助を訪ねています。

「発丑遊歴日録」には

「(四月)二日 晴。坂本鉉之助・奥野哉彌太郎(遠藤但馬守の臣)を訪ふ。」

とあります。

坂本鉉之助邸の所在地は、手がかりとなる資料が少なく、現在のところ桃谷にあったことしかわかっていません。

JR大阪環状線に桃谷駅がありますが、その周辺ではなく、大阪市地下鉄谷町6丁目駅周辺に該当します。

桃谷の地名の由来は、以前このあたりは高低差があり、桃林が多かったことによるようです。

**坂本鉉之助 寛政2年(1790)～万延元年(1860)**

坂本鉉之助は、萩野流砲術家坂本天山の子。通称は鉉之助(げんのすけ)、諱(いみな)は俊貞、字は叔幹、鼎齋は号。大坂城代下の吏員。和流砲術に詳しく「暴母迦農説標題」(ボンペカノン説)の著者。

天保8年(1837)大塩平八郎の乱の際、砲撃で乱の鎮圧に功績をあげ、褒賞を受け旗本格に列せられ、広く名が知られるようになりました。

鉉之助は、松陰が来坂した当時、玉造口定番与力、桃谷(現在の大阪府中央区安堂寺町または上本町西周辺)の屋敷を与えられ、砲術教授も行っていました。

松陰はその評判を聞き、防備軍事への関心から坂本鉉之助に会おうとしたと思われます。



坂本鉉之助邸跡



坂本鉉之助邸跡周辺



桃谷公園



- ▶ 京都市中の警固には、「新選組」のほか武芸達者な幕臣 旗本で組織された「見廻組」がありました。  
 任務の内容に大差はありませんが、新選組の方が活躍の記録は多いようです。  
 目立った活躍はありませんが、坂本龍馬・中岡慎太郎暗殺事件には「見廻組」が大きく関与していた可能性が高いのです。  
 見廻組から直接報告されたわけではなく、維新後、見廻組出身の今井信郎が官軍に捕縛された際、「見廻組」が坂本龍馬・中岡慎太郎を暗殺したことを自供し、初めて公表されたのでした。(それまでは、新選組による犯行と思われていました。)  
 見廻組隊士として、当日暗殺に加わったと思われる桂早之助及び渡邊吉太郎(吉三郎)の墓所が真田幸村ゆかりの寺「心眼寺」にあります。  
 両名とも鳥羽伏見の戦いで傷を負い、大坂で命を落とし心眼寺に葬られました。



心眼寺門前



桂早之助墓碑



渡邊吉太郎(吉三郎)墓碑



かつて、毎日放送制作番組「龍馬の刺客を追ってドキュメンタリー映像80」では、故西尾秋風先生が出演され、心眼寺を訪れ、桂早之助及び渡邊吉太郎の墓碑を探す内容でした。龍馬の刺客に対して、西尾先生がよくおっしゃっておられた次の言葉を私は思い出します。

『断じて！ 断じて！ 刺客どもに時効は許されないのであります！』

## ▶ ①真田山 心眼寺

前記No.3でご紹介した心眼寺は、元和8年(1622)4月、真田幸村(信繁)とその子大助の冥福を祈るため、真田幸村が築いた「真田の出丸」と呼ばれる砦の跡地に、白牟和尚によって創建されました。

心眼寺の定紋は真田家の六文銭に定められ、山号は真田山となっています。



心眼寺の正門(六文銭)

## ②真田丸(真田の出丸)

真田丸(真田の出丸)は東西2つの郭で構成され、広範囲にわたる砦でした。

西側の郭は、南面を半月状の頑丈な柵で固められていました。

東側の郭は、堀の内側に塀を建て連ねた構えとなっていました。

慶長19年(1614)大坂冬の陣の際、真田幸村率いる豊臣軍は、徳川軍の松平忠直、井伊直孝、前田利常藤堂高虎らをここで迎え撃ち、勝利しています。



心眼寺と心眼寺坂(真田丸の東側にあたる跡地)



真田丸跡にある三光神社

# 真田丸(真田の出丸)跡の写真



真田丸跡となる三光神社内の真田幸村像



真田幸村像の横にある「真田の抜穴跡」



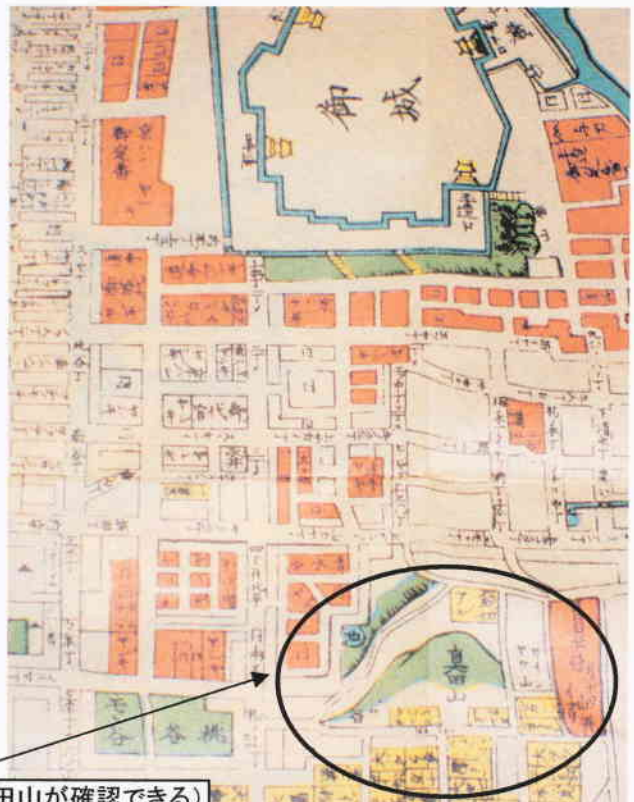
真田丸跡にある陸軍墓地



宰相山公園(今でも高台で当時の雰囲気が残る)



真田山公園



江戸時代の地図(真田山が確認できる)